

火山噴火発生確率の提示について(イメージ)

火山噴火の予測手法について(案)

火山噴火の予測手法

噴火履歴及びマグマ噴出量を調査することにより導き出す

一定規模以上の噴火
BPT分布モデルなどによる発生確率

長期予測
(噴火ポテンシャル)

十数年～数十年

観測データを精査し、過去の噴火前駆事象及びそのモデルにより導き出す

今後、数ヶ月～数年程度で噴火が発生する可能性

中期予測
(切迫性評価)

数ヶ月～数年

観測データをリアルタイムで処理するツールを用い、火山活動の変化を即時的に判断

今後、数時間～数日程度で噴火が発生する可能性

短期予測
(噴火予知)

数時間～数日

期待される効果の例(案)

国民

- ・近くにある火山の噴火可能性や火山災害の認知、避難の心構え
- ・登山者に対する火山噴火の注意喚起

長期

中期

中期

短期

自治体

- ・火山噴火による被害想定算出に寄与
- ・施設立地計画への活用
- ・火山災害に対する都市計画への活用(費用対効果)

中期

短期

長期

中期

長期

中期

その他

- ・学校の防災教育での活用
- ・防災のリスクマネジメントに関する講義で活用

長期

中期

長期

中期